

ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇

XXVI

橋 本 侃

第四一番演目 聖母マリアの被昇天（後半）

（1）

ペテロ めでたし、母であり乙女である方——このような方は、これまでに一人としていなかった。

あなただけがこの上ない本当の祝福をお受けます。

パウロ めでたし、他の人などと比べられない女王、神の聖座！

あなたからわたしたちすべての癒しと栄光が生まれるのです！

めでたし、神と人間とを仲介される方、わたしたちの過ちを改めてくださる方！

（2）

マリア ああ、兄弟のみなさん、心のすべてをこめて申しあげます、ようこそいらした！

でも、急に皆さんがお集まりになったわけを、どうぞお聞かせください。

ペテロ わたしたちはあなたの子息のことと天上の喜びをさまざまの国で説き教えたところ、

255

わたしたち一人ひとりの心にかかる種々様々の黒雲はいちどきに取り払われました。

すると、あなたの住まいの門前へ、わたしたちはいっせいに連れてこられたのです。

しかし、ここへわたしたちがやって来た理由は誰にも分かりません。

マリヤ 神の慈しみをいまここに、神に感謝します——これは高遠な奇跡です。

260

いまここで、わが子がこのようにしてくれたわけを申し上げましょう——
わたしはわが子の姿をぜひとも見たかったです。

ヨハネ 婦人よ、そのように望まれたとしても不思議ではありません。

(3)

マリヤ わが子のイエスがその高遠な憐れみから、

天使の一人が遣わされ、このように伝えました、

「三日目の夜に、あなたはその神格が子である息子のもとへ必ず昇る」と。

265

そこで、兄弟のみなさん、あなた方と一緒にいられるように、わたしは心をこめて祈りました。

すると、祈りがかなって、神はあなた方をわたしのところへ集められたのです。

ペテロ 賢く、恵まれた婦人よ、それでわたしたちはこのとおり報われたのです。

マリヤ 祝福された兄弟のみなさん、お願いです、わたしの言うことをよく聞いてくださ
い。

いまはもう、わたしのために用意されたこのベッドに休みます――

明かりを明るくつけたまま、寝ずにわたしを見守ってください。

パウロ 婦人よ、あなたに必要なものはすべて整えましょう。

(4)

マリヤ あなた方は神の力がどのように働くかを必ずや直ぐに目にするでしょう。

この体の生来の力は弱まり始めました。

〔ココデ、聖母ハシカルベク身支度ヲ調エラレテ、寝台ニ寝カサレル。〕

ペテロ 兄弟たちよ、一人ひとりが蠟燭をしっかりと手に持ち、

わたしたちの母が持ち堪えているうちに、急いで火をつけ、

乙女でもある方のためにはっきりと徹夜の祈りをしましょう。

そうすれば、われらの主が純真な花婿として来られた時に、

わたしたちがまだ寝ずにいて、明かりも整えられていることをご覧になれます――

これも主がおおいでになる時がしかと判らないからです。

そして、身を少しも汚すことなく、いつも用意ができてるように心がけましょう。

(5)

マリヤ ああ、優しいわが子のイエスよ、いまここで、お前の慈しみを叫び求めます。

お前の慈しみがわたしたちのすべての罪に及ぶようにしてください。

〔ココデ、主ハ天軍九隊トトモニ天ヨリ降りテ、言ウ。〕

主 母の声が聞こえて苦しかった――

いまやこうして、わたしを生んだ方のところへ降りて来た。〔ココデ、楽器ガ鳴ル。〕

(6)

マリヤ ああ、ようこそいらした、慈しみ深い主よ、わが子のイエス、慈愛の神よ！

この必要な時に、天使がわたしに崇高な王を与えてくれるといいのですが！

主 母よ、わたし自ら、用意を整えてここにいます、

天の合唱隊とともに、あなたの葬送歌を歌うために。

他ナラヌアナタヲ選ランデ、ワタシノ玉座ヲアナタノ上ニ置クタメニ、コノヨウニ来タ。

ナゼナラ、王ハアナタニマミエルコトヲ望ンデオラレルノダカラ。

マリヤ 神ヨ、ワタシノ用意ハデキテイマス、心ノ準備ハデキテイマス。

ワタシハ主ニ向カッテ雅歌ヲ歌イマシヨウ。

使徒たち ココニオラレル方ハ悪ノ苦シミヲ知ラナイ方デス。

聖霊ヲ尊ビ、死者ノタメノみさヲ執リ行イマス。

マリア スベテノ世代ノ人々ハ、私ヲ幸セト言ウ。

ナゼナラ、カノアル、ソノ名ガ聖ナル方ガ素晴ラシイコトヲ私ニシテクレタカラデス。

主 私ノ花嫁ヨ、私ハればのんカラ、ころなべるカラ来タ。

見ヨ、私ハ来タ、ナゼナラ、聖書ニ私ノコトガ記サレテイルカラダ。

コレハ、私ノ神ガアナタノ望ミヲ果タスタメデアル。

ナゼナラ、私ノ魂ハ神ノ恩恵ニ打チ震エタカラダ。

〔ココデ、まりあノ魂ハ体カラ離レテ神ノ御胸ニ入ル。〕

(7)

主 さあ、清潔さにおいて純粹無垢な、わたしの優しい魂よ、

来て、この上なく輝かしい色をしたわたしの胸のなかで、休みなさい。

わたしの使徒たちよ、この遺体を大事に扱いなさい。

ヨセファットの谷で必ず見つかるはずだ、

マリアの埋葬所として新しく造られた墓が。

そこへ遺体を厳肅に運んで行き、

三日の間、わたしが行くのをじっと待ちなさい。

そうしたら、あなたたちの不運を慰めるために、あなたたちに姿を現わそう。

そして、この優しい魂と共に、あなたたちから離れて天に昇る。

ペテロ 主よ、大きな悲しみにくれるわたしたちを守ってください。

この世では、あなたからいただく慰めしか得られません。

おお、マリアの優しい魂よ、わたしたちを守ってくれるように子息にお願いしてください。

あなたが玉座に就かれる時に、あなたの哀れな兄弟たちをお心に掛けてください。

殉教者の合唱 砂漠カラ出テ来タノハ、

ソノ欲望ニ依存シテ、アフレル喜ビニ浸ル者。

全軍ノ天使団 アノ方ハ、アナタタチがえるされむデ見タ娘タチノ中デモ美シク、

天ニ上ゲラレ喜ブ者トシテ、愛ト喜悦ニアフレ、

栄光ノ王座ニ息子ノ右手ニ座スベク据エラレタ。

〔ココデ、全天ガ歌ウ。〕

(8)

乙女一 さあ、妹、お願いよ、謹んでお仕えするのです。

目の前の栄光にあふれる御遺体をお洗いしましょう、

しきたりにたがわずに、わたしたちの間でとりおこなっている慣例に従って。

いまここに、力ある神を御胎内にはらまれたこの方が祝福されますように！

乙女二 お姉さま、わたしの自信のすべて込めて、用意ができています。

この輝かしい御遺体を洗い清め、礼拝しましょう。

あらゆる被造物はこの御遺体にしかるべき崇敬を果たさなくなりません。

なぜなら、この御遺体は聖霊の働きをお受けになったからです。

〔乙女たちハまりあノ遺体ニ接吻スル。〕

(9)

ヨハネ　ところで、聖兄弟のペテロ、心からお願ひしたいことがあります――

この聖なる棕櫚をこの栄光の御遺体の前で捧げ持ってください。

なぜなら、あなたは使徒の長で、われらの信仰の頭だからです。

それゆえ、この役割を果たすのにふさわしいのはあなたが一番と思われます。

ペテロ　キリストの胸の上で眠り、すべてを天上界のことに話すのなら、
二二〇

疑いもなく、あなたは神の汚れない童貞です。

この勤めはあなたがしきたりどおりにするのが一番ふさわしい。

それゆえ、兄弟よ、あなたが引き受けてください、それがわたしたちの願いです。

そうしてくだされば、わたしは御棺を担ぐのを手伝いましょう。

(10)

パウロ　ペテロ、そのように言われるのなら、わたしは兄弟たちと一緒に

この祝福された御遺体を地面に下ろすのを手伝いましょう。

この聖なる御遺体をここで持ち上げ、

真心からの声を上げて、わたしたちの勤めを唱えましょう。

〔ココデ、使徒タチハ、ソレゾレガ灯明ヲ持チ、まりあノ遺骸ヲ墓所ヘ運ブ。〕

ペテロ いすらえる人タチハえじぶとカラ出タ。やこぶ家ハ外国人ノ地カラ出タ。ヨカリ

シコトダ！

使徒たち ゆだやハ聖別サレタ、いすらえるハソノ權威ナリ。ヨカリシコト！

〔ココデ、天使タチガ天デ美シイ歌ヲ歌ウ。「ヨカリシコト！」〕

(11)

主教 司教の皆さん、お聞きください、この物音はなんでしょう？

天にも地にも美しい音楽が満ちています。

このような音はこれまで聞いたことはありません。

何を歌っているのか、あなた方に解りますか？

司教一 大きな力のある神にかけて言いますが、わたしには分かりません。

何の歌であれ、大きな叫び声をあのように上げています。

何かまずいことが起こるのではないかと心配です。

仲間内で慎重に探ってみるのがいいでしょう、

外の様子を。

司教二 ここ六十年も生きていますが、

これほど美しい音楽はこれまでに聞いたことはありません。

わたしの心臓は恐怖のために震え始めました。

何か新しい悲しみの種が生まれつつあるのではないかと心配です。

(12)

司教三 きつとあれだ、あなた方に事実として言えることがあります――

あの預言者の母であるマリアが死んだのです。

弟子たちがマリアをきらびやかに装って運び、

われわれが注目しているというのに、このような大騒ぎを起こしているのです。

主教 なんとることだ、シラミのたかったイヌめら、ひどい目に遭うといい！

ああ、なんたることだ、悪魔がわしの頭にとりついた！

間抜けの司教たち、早く仕度を整えよ、

さもないと、お前たちの体から血が噴出するようにマホメット様にお願ひするぞ！

あの女王が死んだからには、

甲冑に身を包んだお前たち臆病な騎士たちよ、

死刑執行人たちよ、身の繁栄を図るなら、

悪党たちよ、急いで城門の所へ行って、

前にも言ったあの忌まわしい屍をわしのところへ直ぐに持って来い！

(13)

司教一 主教様、何もしないとお疑いになって、われらを非難されませんように。

あの屍骸と辻説法師の連中に恥辱を与えましょう。

370

司教二 このわたしがあの嘘語りたちを言い負かし、ぎりぎりと言ひ苦しませてやりましょう。

そうすれば、ねめつけてやるだけで、異説を唱える者どもは非を認めることでしよう。

司教三 このわたしはその悪党どもを議論で攻め立てる方を選びたい。

激しい雨嵐のように言葉を浴びせて、鼻水を垂らす奴らを畏に掛けてやりましょう。

主教 それならば、悪魔の名にかけて言う、その盗人たちのところへわしを連れて行き、

その忌まわしい屍骸をわしのところへ持って来い、この寺院の塔の前に。

375

そして、弟子たちをここで殺せ！

悪党ども、急いで行け、直ぐにだ！

悪魔の召使にお前たちの骨をへし折ってもらわなければならぬぞ！

行って、石を投げ、あそこに運ばれて行く屍骸の動きを止める！

380

ああ、なんたるこった！ 怒りに狂わされて、このわしが石を投げに行きたくなった！

〔ココデ、司教タチハ助祭タチト台座カラ下り、弟子タチノ頭部ヘ石ヲ投ゲル。〕

(14)

司教二 なんだなんだ、ここはどこだ？

音は聞こえるが、わしの目に何も見えない！

ああ、悲しいことに、わしの力が抜けてしまったのがはっきりした。

わしはみじめだ、狂ったことしか考えられない。

司教三 怖くなったので、ここから逃げ出したい。

わしをこんなところへ連れてきた奴には悪魔が取り付けばいい！

わしは走り回り、動き回る——なんというみじめさだ！

わしを造った奴は気がふれて、のたうち回っている。

わしは死ぬことなぞ後悔しない。

司教一 ああ、なんたることだ、臆病風に吹かれやがって！

死んでる体が怖いんだな？

俺なら男らしく飛びかかってやる。

弟子の連中がみんな揃っていても恐れなどしない！

〔ココデ、まりあヲ抱エテ狂ッタヨウニ踊リマワリ、両手ヲダラシナク垂ラス。〕

(15)

ああ、悲しいことに、体中が痛む。

体がこの棺にしっかりとくっついてしまった。

俺の手は両方ともひからびてしまった。

おお、ペテロよ、今ここで、俺のためにお前の神に祈ってくれ！

カヤパの屋敷で、お前の姿を認め、

一人の乙女がお前をペテロであるとあばいた時に、

俺はお前を助けたのだから、そのお返しに、今度はこの俺を助けてくれ。

そうしてくれれば、この恐怖から逃れて、無事に健康体となるはずだ。

どんな薬でもいいから教えてくれ。

ペテロ いまこの時に、あなたの世話はできない――

この名誉あるご遺体にたいするお勤めがあるからだ。

しかし、そうであっても、わたしたちの救い主であるイエス＝キリストを信じなさい。

わたしたちが棺に入れて運んでいる方は主の母だった人だ。

(16)

司教一 人間を救ってくださるイエス様を信じます。

ペテロ それなら、神の名を唱えながら、この御遺体について行き、敬いなさい。

司教一 では、慈しみ深い神よ、この身の救いをお恵みください――

イエスとその母を絶えず信じることを誓います。

ペテロ それならば、あそこの棕櫚を手にとって、あなたの国人たちのところへ戻り、

人々が清く正しくいるつもりなら、神を信じるようにさせなさい。

そのあとで、人々の頭と手と顔に触れなさい。

そうすれば、病気は必ず直る。

そうならなくても、痛みには耐えられるはずだ。

司教一 ありがたいことです、聖なる神父のペテロ様、

いまここで教えてくださったとおりにいたします。

わたしのする説教では、いつも神に感謝を捧げます、

高い悔悟と、もっとも慎み深い心をもって。

〔ココデ、皆ハ棺ヲ墓所ヘ向カッテ運ブ。〕

(17)

ペテロ さあ、聖なる兄弟たち、この御遺体を皆で持ち運び、

これ以上のもののない崇敬を込めて、墓に横たえましょう。

御子のために皆で一緒に御遺体に接吻しましょう。

さあ、香を焚いてください。そうしたら、この墓穴にマリア様を埋葬しましょう。

〔ココデ、使徒タチハ香ヲ焚キ聖歌ヲ唱エナガラ、まりあノ亡骸ヲ墓所ニ横タエル。〕

ヨハネ 貴方ハ私ヲ土ヨリ造リ、肉付ケシタ。

左二二

(425)

主ヨ、私ノ贖イ主ヨ、ツイ最近ノ事デス、貴方ハ私ヲ再ビ立チ上ガラサセタ。

神よ、いまこそ、この御遺体を祝福してください、そうすれば、わたしたちは歌います
 「ココデ、使徒タチハ心沈ミナガラ、「父ト子ト聖霊ノ御名ニヨッテ」ト、亡骸ヲ祝福ス
 ル。」

この御体がはらんだ果実がわれらの魂を必ず救うのです。

さあ、兄弟たち、この平らな穴の上で休みましょう。

神であり主である方から、お知らせをいただくまでは、

わたしたちはここに留まっていなくてはなりません。

パウロ ヨハネよ、あなたの言うとおりに、わたしたちはここに留まらなくてはなりません。

それでは、ここで祈りながら待ちましょう、

それが最善の祈りであると教えられたとおりに、主に慰めを求めながら。

この墓の周りで休みましょう。

「ココデ、主教ハ棕櫚ヲ手ニ持チ、ゆだや人ノ所へ行ク。」

(18)

司教一 原罪という大病を患っているお前たちユダヤ人よ、

キリストⅡイエスを信じなさい。そうすれば、必ず健康になる。

三位一体から出たこの聖なる棕櫚の力によって、

お前たちの病気の苦しみは必ず軽減され、元からある精神の安寧が取り戻されよう。

司教二 わたしは神と一体となっている神の御子キリストイエスを信じ、

現世の財貨を貪欲に求めるわたしの罪を捨て去ります。

〔ココデ、棕櫚デ触レラレルト、信者タチハ癒サレル。〕

ああ、慈しみ深い主よ、あなたに感謝いたします、それに憐れみ深い母マリアさまに。

いまやわれらの病と、われらの不潔な不運から、癒されました。

司教三 われらの掟を捨て去るのはどこのどいつだ？

司教二 あなたもそのようにするのが一番だと思う。

司教三 悪魔の名にかけて言う、俺から離れて、どこかへ行っ飛ばせ！

ああ、なんたることだ、俺は死ぬ――

残酷な悪魔たちが俺を地獄へ引きずりこもうとしている！

(19)

悪魔一 ベルゼバブとベリヤル、よく聞け、大悪魔サタン様が

われらのもってこいの罪の奴隷をこの牢獄へ連れて来なさる。

火炎に息を吹きかけて、やつらを火あぶりにしてしまえ！

この大悪魔の前に行くまでに、もう一度、準備を整えておけ！

悪魔二 その悪党どものところへ急いで走ってゆき、

底深いこの穴の中に投げ落してやろう。

俺たちの穴倉で必ず燃やし、茹で上げ、震え上がらせてやろう。

悪魔の名にかけて、できるだけ早く行こう。

さあ、さあ、町へ繰り込もう！

悪魔一 ここにいる悪党を急いで引きずって行き、

地獄の穴へ寝かせてやる。

一一二

悪魔二 さあ、行くぞ、地獄の犬ども、叫べ、

サタン様にわれらの声が聞こえるかもしれない。

460

(20)

主 さあ、天使とこの天上の宮廷にいる皆さん、

わたしと一緒に地上へ降り立ち、

地上のわたしの母の遺体を引き上げ、

わたしの神性の喜びへ運びましょう。

465

ここにいる皆さんはいまこそぞって事に当たるようにしましょう。

天使たち 主よ、そのとおりです、あなたの高い慈愛のために、全天が音楽を奏でます。

〔ココデ、主ハ地上ニ降り、使徒タチノ所ヘ行き、言ウ。〕

(21)

主 あなたたちの皆に平和を！ わたしの愛しい使徒たちよ、

あなたたちの主であり、まさにあなたたちの神である、このわたしを見なさい。

ペテロ ああ、われらの慰めであるキリスト、人間そのものの姿でよくぞいらしてくださった。

偉大な、奇跡を行う神、あなたの力は偉大です。

主 今ここにいるあなたたちはどのように見えるのだろうか、

マリアと呼ばれていたこの遺体に、崇敬と慈しみをわたしがほどこすとしたら。

ヨハネ 主よ、あなたが死から立ち上がり、あなたの王国で支配されるのと同じように、

光輝くあなたの栄光へ、この御遺体を立ち上がらせてください。

わたしたちにはそれが正しいことに思われます。

ミカエル 栄光の神よ、そのとおりです、ご覧ください、御魂に用意ができています、

よろしければ、この祝福された御遺体へ永遠の喜びをお与えください。

天も地も、これが最善であると考えることでしょう――

神よ、マリアがあなたの力のうちにあなたを身ごもったとおなじように。

〔ココデ、魂がまりあノ体ニ入ル。〕

(22)

主 それでは祝福された魂よ、行きなさい、再びそこにある体の中へ。

さあ、いまこそ、立ち上がりなさい、わたしの鳩、わたしの隣人、わたしの優しい友よ、喜びの住まいと、命の器と、天の寺院を支配するために。

母よ、わたしと一緒に終わりのない喜びを必ず持つことになります。

なぜなら、罪という罪を未経験で、あなたには地上において清らかであったのとちょうど同じように、

もっとも清らかな気分で、天上において必ず支配するのです。

マリア ああ、イエスよ、終わりのない崇拜を、苦痛から開放してくれるあなたへ、

わたしと地上の人間すべてがあなたを祝福できますように、人間の質を持って生まれた

あなたを！

御覧なさい、あなたと一緒に行く用意ができました。

左二二

主 母よ、それではわたしたちは天上へ昇り

490

終わりのない喜びの中に留まりましょう。

ミカエル 天と地よ、今こそ、喜べ――

神はマリアをつうじて人間の友となられたのだから。

〔ココデ、まりあトみかえるハおるがんと天使ノ歌ガアフレル天ヘ昇ッテ行く。〕

(23)

まりあヨ、イマハモウ、アナタハ天ニ入ッタ。

485

主 母よ、聖なる三位一体は喜んであなたをあがめます。

それゆえ、この栄光の王国において、あなたに王冠をかぶせます。

わたしが選んだすべてのものから、必ず呼ばれることになろう、

天の女王、憐れみの母、と。

ミカエル あなたがたの名が祝福されますように、とわれらは叫びます。

この聖なる被昇天のために、全天が美しい音楽を奏でています。

全員 神ニ栄光！

〔ここに、「被昇天」が終わり、コヴェントリー・サイクル最終演目の「最後の審判の日」へ続く。〕

500

第四十二演目 最後の審判

〔ココニ、「審判ノ日」が始マル。いえすハみかえるト大天使がぶりえるト天カラ降リル。〕

左二三

(1)

ミカエル 起立セヨ！ すべての人間たち、立ちなさい。

495

法廷ニ来ナサイ――

なぜなら、高等法院がいまここに開廷され、
審判の日が到来した。

この最後の審判へ急いで駆けつけよ、
身分の上下に関わりなく、すべての人間よ。

それに、どのような答えを出すかを良く考えておくように忠告しておく、
出廷した時に何を言うかを、

また、どのように答えるかを。

なぜなら、神があなたに尋問をする時、
釈明などは何の役にも立たない。

神は本当の事実だけを見分けられ、
あなたを天国か地獄へ送られる。

(2)

ガブリエル 教皇と宝冠を被った聖職者の方々、
王に皇帝、それに恐れを知らぬ騎士たち、
理性を急いで働かせよ――

この日が必ず苦しみの日となるからだ。

貧乏人も、高名の金持ちも、

地獄にいるありとあらゆる悪魔どもも、

この審判の日から、身を隠すことはできない。

なぜなら、すべての行状は、ほら、このとおり、ここに確かに明らかにされている、

誰の目にもはっきりとさらされている。

死ぬべき罪にあると認められた者は

身を隠していたほうが良かった――

果てしない地獄で必ず虐殺されるだろう、

そ奴の所業には死が必ず待ち構えている。

〔地下で甦エル全テノ者たちハ「ハア、アア」ト大声ヲ上ゲル。其ノ後デ、立チ上ガル者

ガ「ハア、アア」ト言ウ。〕

二二四

(3)

罪人たち ハア、アア――地面よ、真つ二つに割れる！

二つに裂けて、われらを通せ。

今やわれらの歌は「ああ、なんという悲しみ、

死に値する罪を犯したとは！」というものになるだろう。

全テノ悪魔 〔大声デ〕 おお、なんたる、何と言ったらいいのか！

30

25

20

ああ、われらは叫び声をあげる、「悲しいかな！」と。

ああ、なんたる、今日があの日なのだ。

経験しなくてはならない終わりのない苦痛に合わせて、

ああ、なんたる、悲しいことだ、とわれらは叫ぶ。

復活スル全テノ魂 ああ、主よ、われらの悪行に慈愛をお与えください。

そして、あなたの内に生まれた慈愛を世の中にも生ませて、広く行き渡らせてください。
しかし、ああ、われらは恐れの中に留まっています――

慈愛を求めるには遅すぎる！

(4)

神 来ナサイ、祝福サレタ者タチ、すべてのわたしの兄弟たち、

ワタシノ父ノ愛おいしい子供たち、

こちらへ、わたしのところへ、わたしの高殿へ、来なさい。

すべての者たち、わたしの弟子と忠実な信者になりなさい。

あなたたちからすべての悪の虫は落ちてしまう！

この右の手で、ここにいるあなたたちを祝福する。

わたしの祝福はあなたたちを光り輝く宝玉のように磨き、

あなたたちを水晶のようにきれいに仕上げる。

すべての汚れはあなたたちから消え去る。

ペテロよ、天国の門のところへ行き、

錠前を開け、門を開きなさい。

わたしの祝福された子供たちよ、わたしも一緒に連れて行ってくれ、

子供たちの心を喜ばせるために。

(5)

ペテロ いま直ぐに天の門を開けましょう。

さて、愛しい兄弟たち、天国によくこそいらした！

さあ、来て、神の右側に座りなさい。

そこには、楽しさと美しい音楽が欠けることはありません。

救ワレタ全テノ者 わたしたちは膝で這いながら、すべるように近づき、

憐れみに満ちたわれわれの主を礼拝します――

広々と開いた主の傷口をとおして、

主の喜びにわたしたちは連れて来られたからです。

聖なる主、わたしたちはあなたを拝みます。

神 よくぞ来た、天国に座を占めなさい。

よく来た、わたしから決して逃げ出させはしない。

喜びの保障を必ず与えよう。

楽しさと喜びへ、よく来た。

(6)

地獄落ちノ魂 ああ、ああ、憐れみを、憐れみを、われらは叫び求めます。

ああ、主よ、われらの悪行に憐れみを！

ああ、憐れみを、憐れみを、われらは手をこすり合わせて願います。

ああ、善い主よ、このように困っているわれらを助けてください。

神 みじめな者たちよ、どのようにして憐れみを得ようというつもりか？

このように困っている時に、なぜ憐れみを求めるのか？

魂を救うためにいままでなにをしてきたのか？

誰に向かって、憐れみの行いをいくらかでもしてあげたことがあるのか――

憐れみを神から勝ち取るために？

悪魔――憐れみだと、とんでもない、憐れみなど必ず取り除かれるものだ。

しかも奴らの額にははっきりと見分けがつく印が見える――

黒い字で書いてあるからだ、

はっきりと奴らの罪のすべてが。

(7)

神 腹のすいた者たちと喉の渴いた者たちが、わたしの名において求めたのに、 二二五

お前たちは食べ物と飲み物を与えようとしなかった。

裸でいる者たちを恥ずかしいだろうと思わなかった。

誰にも衣服を着せようとしなかった。

病気の者や足萎えに同情を寄せなかった。

お前たちは憐れみの行いを、一度として、しようとしなかった。

住む家のない者たちに住む家を用意しなかった。

死んだ人が貧しかったから、埋葬に行かなかった。

しかるべくする行いをお前たちはだいたしにした。

あなたたちを愛しているから、わたしは十字架の上で引き裂かれたのだ。

そして、あなたたちのためにわたしは血を流したのだ。

わたしが憐れみに満ち、善い人間だったというのに、

わたしの意思に反することをなせしめたのか？

悪魔二 お前の額のここに書かれているのが見えた――

お前は非常に残酷で高慢だった。

貧しい人にパンを与えようとせずに、

戸口からいつも追い払った。

悪魔三 それに、おまえの顔の上の、ここに読めるぞ――

喉の渴いた人が来たら、

喉が渴いて死ぬというのに、

飲み物をいつも隠した。

貪欲なことをいつも考えてばかりいた。

悪魔一 怒りにまかせて、隣人を中傷すること、

隣人を怒らせることが、お前の楽しみだった。

罪のない人を間違って告発しようとしても待ち構えていた。

お前のために人は苦しめられたが、おまえのほうは苦しんだことがなかった。

(8)

悪魔二 お前の考えることはいつもねたみのことだけだった。

牢獄に繋がれている人を一度として訪ねようとしなかった。

隣人たちにたいして不親切だった。

危険な目に遭っている人を一度として助けなかった。

悪魔三 怠慢の罪のせいでお前の魂は必ず破滅する。

ミサにも朝課にも預かるうという気はなかった。

亡骸を埋めに行こうとしなかった。

左三五 (105)

それゆえ、必ず終わりのない恐怖へ向かうだろう――
 なにかというとなまけ癖がついていたからだ。

悪魔一 お前は大食いを喜びとしていた。

酔っ払うことと好色に喜びを求めた。

恥ずかしげもなく、宿なしから

おまえは休息を奪った。

(9)

悪魔二 あばずれシュビラの預言どおりに破滅するだろう――

生涯にわたって、お前は好色な生き方をした。

隣近所の者にたいしてお前は口やかましかった、

お前の楽しみのすべては好色な遊びだけだった。

神を敬う人でお前が愛した人はほとんどいなかった。

裸でいる人と着ている物が質素な人には、

わずか一口のパンでも恵んで助けようとしなかった。

糸の一本でも、人にめぐまなかった、

神の名を口にして、お前に頼んだとしても。

地獄落ちノ者 ああ、主よ、憐れみを、大きな力のある主よ、

あなたの憐れみを求め、あなたの義は求めません。

われらの行いを問わずに、われらの罪をお許しください。

われらは罪を犯しました——われらは非難されてしかるべきなのです。

〔次行に、話者「神」と記され、後に続く記述はなし。この頁でW帖は終わる。〕

〔ここに、ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇は全演目が終了。〕